



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(49) キ  
ヨヒメクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(49) キヨヒメクラゲ. 紀伊民報  
2012

ISSUE DATE:

2012-01-19

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180182>

RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2012年(平成24年)1月19日 木曜日 第20798号 (12)

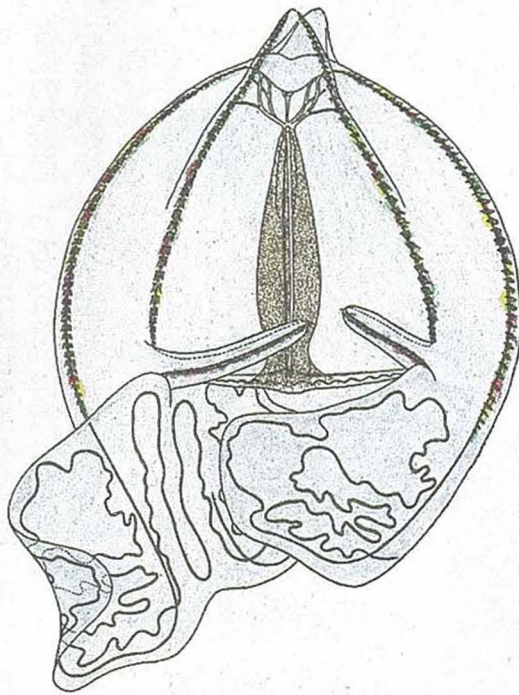
# キヨヒメクラゲ

久保田 信

49



キヨヒメクラゲは、紀南の海で採取された標本を基に、新種とされたクシクラゲ類の一種だ。当地方に残る安珍清姫の物語にちなんで和名も学名も付けられている。



白浜産の個体を基に新種として記載されたキヨヒメクラゲ

(Komai & Tokioka, 1940 改写)

名付け親は、京都大学瀬戸臨海実験所の元所長の駒井卓先生と時岡隆先生である。1939、40年の冬季に白浜町沿岸で採取した数個体の標本を基に、新科・新属・新種を付けた。生態についてはまだ謎の部分が多い。

その後64年ぶりに2004年2月初旬に1個体を筆者が白浜町で発見した。だが、採取に失敗し、記録することができなかった。世界で2番目の正式記録は、長崎県佐世保市沿岸からで、08年1月4日、海面付近を遊泳していたのを

ひしゃくですくい取った。

キヨヒメクラゲは無色透明で平たい体をしている。1対の三角状突起が体の先端から突き出ているのが特徴である。カンブリア紀の中国産化石と類似している。口の周りには張り出した1対の袖状突起があり、その中を栄養輸送の水管が複雑に屈曲している。袖状突起の付け根には、対になった耳状突起もある。三角状突起から口までの長さは8センチあって比較的大きい。クシクラゲの特徴である櫛板(くしいた)は一行に最多で40個もあり、これで体をゆっくりと推進させる。

キヨヒメクラゲの仲間ももう一種、ウサギクラゲという種がある。この種はアメリカの太平洋沿岸から知られ、78年に新種として記載された。キヨヒメクラゲより大型であるが、2種はかなり類似している。このウサギクラゲは深海性であるので、キヨヒメクラゲもその可能性が高い。それゆえ、めったに沿岸には姿を見せないのかもしれない。

(京都大学准教授)